

地震防災対策の現状調査に係る住民向けアンケートのお願い(内閣府)

大規模地震による被害は、主に津波・揺れ・火災に大別されます。それらの被害に対して、避難施設の整備や建築物の耐震化等の対策が進められています。一方で、津波からいち早く避難する意識の徹底や、日頃からの備えの再確認をし、いざというときに迷わず行動できるようにしておくことも、被害の軽減につながります。

この度、内閣府では、今後の防災対策に活かすため、日頃の防災意識や対策等に関する調査を実施します。一人でも多くの方にご回答頂きたく、ぜひご意見をお聞かせください。また、本アンケート調査を通して、皆様一人一人が防災意識を高め、日頃から災害への備えに取り組んでいただけますと幸いです。

○回答フォームURL:<https://en.surece.co.jp/kaiko2023/>

○実施期間:7月1日～8月31日(終了予定)

○回答の際、以下の点にご注意ください。

- ・回答は1人1回限りとなります。
- ・回答の途中で、回答状況を一時保存することはできません。
- ・選択式の設問は該当する選択肢をチェックしてください。また、記述式の設問は可能な限り具体的にご回答ください。
- ・回答内容は、個人が特定できない形でとりまとめ、今後の防災対策の検討に活用させていただきます。

○「地震防災対策の現状調査に係る住民アンケート」のメールでのお問い合わせ・ご意見・ご要望について

内閣府 政策統括官(防災担当)付 参事官(防災計画担当)付

問い合わせフォーム:<https://form.cao.go.jp/bousai/opinion-0067.html>



気象台一口メモ

大雨の季節

一年で一番暖かいこの時期、暑さ対策のほかに気を付けたいことに「大雨」が挙げられます。この時期は、他の季節と比べて雨のもととなる水蒸気を大気中に多く含むことができるため、大雨の可能性が高くなります。

気象台では、まとまった量の雨が予想される場合、雨水が地面に染み込むことで地盤が緩み崩れる「土砂災害」、地表に留まり家屋等を水浸しにする「浸水害」、河川が増水しあふれる「洪水害」の発生の可能性を予測し、危険度が増したときに注意報・警報の発表によって災害に対する注意・警戒を呼び掛けています。それぞれの市町村のどの辺りで災害の危険度が高まっているかは、気象庁ホームページ等で公開されている『キキクル | 危険度分布』をご参照ください。

ここ十年ほどの国内の災害記録をみると、雨が止んだ後や、小康状態になってから災害が発生する事例がありました。例えば、川の下流域で全く雨が降ってないのに、上流でまとまった量の降水があったため下流で増水・氾濫した、また、土中に多量の雨水が残っていたため大雨でなくとも土砂災害が発生したなど、頭上の状況だけでは災害の危険性は判断できません。市町村からの避難に関する情報や、気象台からの気象情報・警報などを参考に、災害の恐れのある場所・時間帯を避けた行動を心がけるようお願いします。

キキクル | 危険度分布 (下記URLは、土砂災害の危険度を表示)

<https://www.jma.go.jp/bosai/risk/#lat:45/lon:142/zoom:9/colordepth:normal/elements:land>

お問い合わせ先：稚内地方気象台 電話 0162-23-2679

